CSR T&D

CSRレポート2015

ダイジェスト編

T&D T&D保険グループ

株式会社 T&Dホールディングス

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番3号　TEL：03-3434-9111（代）
http://www.td-holdings.co.jp/　mail：csr@td-holdings.co.jp
※東京都中央区日本橋2丁目の東京日本橋タワーに移転予定です（2015年12月予定）。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

Carbon Offset for 157 g-CO_2/copy
Waterless Printing. Naturally.

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004514

CARBON OFF SET
この印刷物から発生する7,200KgのCO_2は、カーボンフリーコンサルティング(http://www.carbonfree.co.jp)を通じてオフセット（相殺）され、地球温暖化防止に貢献します

人と社会に貢献する グループとして

株式会社T&Dホールディングス 代表取締役社長
喜田 哲弘

T&D保険グループは、持株会社であるT&Dホールディングスの傘下に、太陽生命保険、大同生命保険、T&Dフィナンシャル生命保険の生命保険会社3社を含む子会社15社および関連会社2社で構成する企業グループです。

私たちT&D保険グループは、グループとしてスタートする際に、企業活動の根幹をなす経営理念として、「Try&Discover（挑戦と発見）による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指します。」を掲げました。相互扶助の理念を基礎に置く生命保険業を事業の中心とするT&D保険グループにとって、事業を通じて人と社会に貢献することは、企業としての根本的な理念であり存在意義でもあります。

T&D保険グループはこれまで、個人、家庭、中小企業などを取り巻く多様な社会的課題に対し、独自性を持つ保険商品とサービスのご提供を通じて問題解決に努めてきました。そして今、わが国は急速な人口の高齢化に直面しています。10年後の2025年には団塊の世代が75歳以上になり、介護問題が深刻さを増すと言われています。

T&D保険グループは、この大きな課題に対しても、介護保障商品の開発を通じてお客さまに安心をお届けするとともに、シニア世代のお客さまにより安心していただけるよう、さまざまな施策を総合的に推進する「ベストシニアサービス」を展開しています。

このように、T&D保険グループは、社会の変化がもたらすさまざまな課題に積極的に関わり、その解決のために何ができるかを常に考え、行動してきました。この企業姿勢はこれからも変わりません。

また、上記のような取組みとともに、「持続可能な社会」の形成に向け、環境保護への取組みも積極的に推進しています。その一環として、2014年7月には、グループ各社が金融機関の行動指針である「21世紀金融行動原則」に署名しました。

さらに2015年7月には、国連が提唱する持続可能な成長を実現するための国連と企業の協力の枠組みである「国連グローバル・コンパクト」の10原則の支持を表明し、参加企業となりました。

T&D保険グループは、自らが果たすべき責任と役割を認識し、目標を定め環境負荷軽減に取り組んでいます。また、関連財団の活動なども含め、地域や社会との共生などのために、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。誰もが活躍できる社会を目指し、女性の活躍を支援し、ワークライフバランスの取組みを推進し、労働環境などの整備を進めています。また、機関投資家の責務を果たすべく、「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）の受け入れを表明し、投資と対話により日本企業の中長期的な成長を後押ししています。

「CSRレポート2015 ダイジェスト編」では、このようなT&D保険グループの取組みを分かりやすくまとめてご紹介しています。ぜひ、ご一読いただき、当グループへのご理解を一層深めていただければ幸甚に存じます。

これからもT&D保険グループは、本業の生命保険業はもとより、幅広い事業活動を通じて、地域や社会の発展に貢献してまいります。引き続きご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

私たちは、社会的課題への取組みを通じ、価値を創造し、人と社会に貢献します。

T&D保険グループ経営理念

Try & Discover（挑戦と発見）による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指します。

Philosophy

T&D保険グループCSR憲章

（前文）

T&D保険グループは、経営理念に基づき、社会とともに持続的成長を遂げ、生命保険業等の公共的使命と企業の社会的責任を果たします。

Group CSR Charter

私たちの重点分野（2015）

幅広いステークホルダーにとって重要な分野、私たちの企業理念と成長にとって重要な分野から、3つの分野を重点分野として選定し活動に取り組んでいます。

「より良い商品・サービスの提供」
materiality 2015
「人権の尊重」 「地球環境の保護」

T&D保険グループ

- 株式会社T&Dホールディングス
- 太陽生命保険株式会社
- 大同生命保険株式会社
- T&Dフィナンシャル生命保険株式会社
- T&Dアセットマネジメント株式会社
- ペット＆ファミリー少額短期保険株式会社

（他 12社）

私たちの取組み　社会的課題 → 人と社会の価値創造

身近でありながら、お客さまや　社会としっかりつながるCSR

CSRは決して特別な活動ではない

伊藤：私は営業として担当先の代理店さんへ伺うことが多いのですが、普段は特にCSRを意識することはありません。ただ、私たちの業務ひとつひとつが必ず社会とつながっていますので、誠心誠意お客さまと対峙することが大切だという意識は常に持っています。

深沢：太陽生命では以前からお客さまに身近な社会貢献活動を行うことも多く、日常的にCSRが実行されていることを感じます。お客様サービス推進部はお客さまと身近に接する部署で、そこに寄せられたお客さまの声から新たな商品が生まれることもあります。

土川：入社する前は、CSRといえば「寄付や慈善活動」といったイメージを持っていましたが、実際には非常に幅広い概念であり、その中にはコンプライアンスも含まれています。私は日常の業務の中で、保険業法や行政の指針などに接する機会が多いのですが、やはり私たちグループ企業にとって、適正な勧誘・顧客保護は、重要な使命だと感じています。

前島：コンプライアンスや顧客保護に対する社会の目は非常にシビアになっていますよね。CSRは企業に必要不可欠なものので、もし社会の反感を招くような行為があれば、業績に悪影響を与えるだけでなく、企業の存続が困難になるほど重要になっています。

お客さまの満足につながる商品・サービスがCSR

深沢：社会の状況が変化すれば、保険商品も内容を改めなければいけません。当社では2014年より、高齢化社会に対応するために「ベストシニアサービス」を始めました。これはシニア世代のお客さまの利便性を高めるため、サービス、商品内容からホスピタリティに至るまであらゆる面をお客さま視点で見直していく取組みです。お客さまのニーズに応えるとともに、社会的にも貢献できるものだと思います。

伊藤：社会情勢が様変わりする中、特に保険業界においては、常に「今のニーズ」に応えられる商品を素早く提供できるよう、普段から準備していくことが重要になるのではないかと思います。それが企業の評価にもつながります。

前島：私たちが手がけている資産運用のサービスにおいても、お客さまの投資ニーズを汲み取り、開発に手間がかかるような商品でも素早く対応して提供することでお客さまから評価されている面もあります。

土川：当社では近年、中小企業経営者のニーズに応えて、在任中の就業不能リスクに対応する商品の提供を始めました。私自身、営業部門にいた際、お客さまや代理店から、「まさに欲しかった商品だ」というお声を多くいただきました。社会のニーズに私たち保険業界がしっかりと応えなくてはいけないと思いますね。

社会のニーズを反映するCSRを考える

深沢：お客さまに「太陽生命だから安心だよね」と言われることも多く、喜びとともに大きな責任を感じます。CSRは個人でできることもありますが、やはり大きな組織でなければできないこともたくさんあって、それがお客さまからの評価・信頼につながるということを日々感じます。

土川：高齢化とともに社会のニーズとして大きくなっているのが「介護をどうするか」ということですよね。T&Dグループとして、介護面のサポートをさらに充実させていければ良いなと考えます。

伊藤：保険手続きの簡素化とスピード化はお客さまの利便性を高めるもので、業界にとっての大きなテーマです。審査段階での手続きをスピード化することによって加入の可否の連絡をお待ちいただくご負担を少しでも減らす、お支払いの査定を簡素化・スピード化することによって必要な給付金・保険金をできるだけ早くお客さまへお届けする。スピーディーな仕組みづくりは重要な課題です。

T&Dグループのこれから。そしてCSR

深沢：保険は困ったときに役立てていただくものだから、その本質が揺らいではいけません。ご加入時やお手続き時に少しでもスムーズな手続きができるようなシステムを構築する、何かあった際には速やかに保険金をお支払いする。お客さまに安心を提供すること、そしてそれを続けること。そうした当たり前のことを適切にもれなく進めることが私たちのCSRだと思います。

伊藤：金融業界は環境の変化が激しく、その影響も受けやすい分野で、そこでは常にアンテナを張って、先読みする力、スピード感を持って対応する力が必須です。グループ全体にそういう意識付けを行き渡らせ、今以上にお客さまに満足していただける商品を提供できるようにする。それがCSRにつながっていくのではないでしょうか。

前島：私たちは、ESG投資を始めました。これはE(environment：環境)、S(social：社会)、G(governance：企業統治)に配慮している企業を重視・選別して行う投資です。CSRを疎かにする企業は社会に受け入れられず、持続的な発展も困難だと思います。一方でCSRに真面目に取り組む企業は将来の競争力を高められる可能性もあり、CSRと企業価値は密接に関係するものだと考えています。資金の運用者として、投資先の選別を通じてより良い社会づくりに貢献していくこともT&DグループのCSRだと思います。

土川：T&Dグループの経営理念は「Try & Discover(挑戦と発見)による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指します」です。お客さま、社会のニーズにまだまだ届いていない部分をグループ全体で補完し合いながら、あらゆる人に安心をお届けすること。それが当社グループのCSRのひとつの理想形だと思います。

深沢　富裕子
太陽生命保険株式会社
(お客様サービス推進部
お客様サービス推進課)

土川　浩永
大同生命保険株式会社
(企画部企画開発課)

前島　良子
T&Dアセットマネジメント株式会社
(グローバル株式運用部)

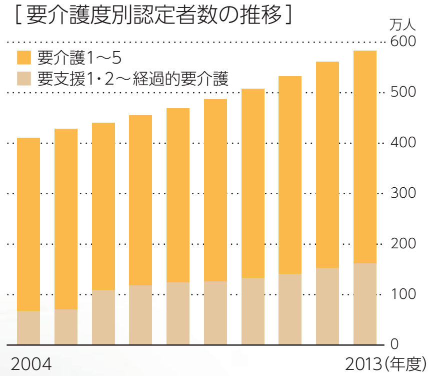
伊藤　希
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社
(事業推進部東日本第一推進室)

社 会 的 課 題 ①

「ずっと安心して暮らせる社会へ」
——変化する未来のリスクに備えるために

少子高齢化の進行や医療の進歩など、
社会のさまざまな変化とともに、
私たちが備えたいと思う未来のリスクも変化しています。
T&D保険グループは、変化する未来のリスクを見つめ、
新しい保険商品とサービスの開発を通じて、
未来への備えを提供します。

［要介護度別認定者数の推移］



出典：厚生労働省 介護保険事業状況報告 月報

平均寿命が延びる一方で、介護が必要と認定された方の数は毎年増加しています。

商品開発担当者から

新商品誕生までの道のり

高齢化の進展などに伴い、介護を必要とする方は年々増加しており、介護のリスクは身近になりつつあります。

実際に、当社が2014年度に行ったアンケート調査でも、将来のご自身・ご家族の介護に対して不安を感じている方が多くいらっしゃいました。

一方で、民間の介護保険に加入いただいている方はまだ少数で、ケガや病気などへの備えに比べて、介護への備えは十分とは言えません。

大同生命【介護リリーフ】
介護施設への入居などによる介護費用の負担に備えます。

大同生命【収入リリーフ】
経営者・個人事業主の方などが要介護状態になった場合の収入の減少に備えます。

このような社会の状況を踏まえ、今後はさらに介護保障へのお客さまのニーズが高まるものと考え、コンセプトの異なる2つの介護保障新商品を同時に開発し、介護を総合的にサポートする新サービスとともに、2015年10月1日より取扱を開始いたしました。

届けたい想い

今回開発した2つの介護保障の新商品は、お客さまが介護を必要とする状態となった場合、1つは以後のご本人とご家族の生活資金を、もう1つは介護に関わる費用を保障するコンセプトの商品です。

いずれの商品も、お客さまが介護を必要とする状態となった場合に経済的な負担を感じることなく、安心して介護を受けていただきたいとの想いを込めて開発いたしました。

民間の介護保険は、公的介護保険制度を補完する手段として、社会的に貢献度の高い役割を担うものと考えています。

今後とも、少子高齢化や医療技術の進歩など、社会環境の変化に応じた商品開発に取り組んでまいります。

大同生命保険株式会社 商品部 課長　**佐々木 恒輔**

お客さまからいただいた声

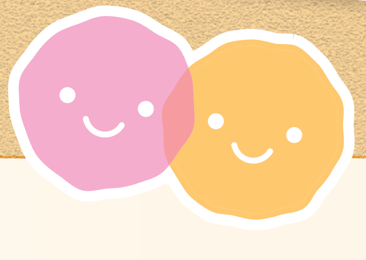
企業と経営者のさまざまなニーズに配慮されていて心強く思います。これからも充実した保障内容の商品の開発を進めてください。

顧客の立場に立った商品開発とそれを伝える営業サイドの熱意が伝わってきます。

中小企業の経営者を応援してくれる商品なので安心して加入しました。

目的に合った保険商品を素早く用意してもらっています。営業の方も一層頑張ってください。

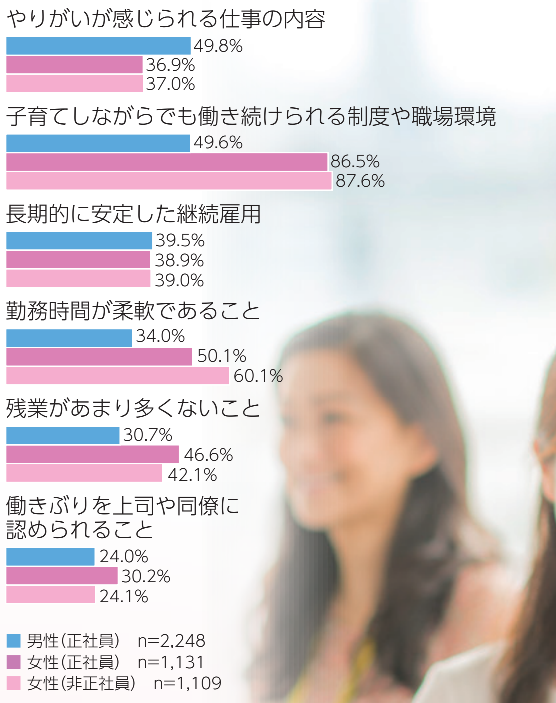
（2015年度実施「お客さま満足度アンケート」でいただいたお客さまの声です）



「誰もがいきいきと働ける社会へ」
——企業と社会の持続的成長のために

グローバル化の進展、暮らし方や働き方の多様化など、
企業と社会を取り巻く環境は大きく変化しています。
企業と社会が持続的に成長するためには、多様な人材がそれぞれの能力を発揮することが必要です。
T&D保険グループは、企業と社会の持続的成長のために、
多様な人材が十分に活躍できる環境整備に取り組んでいます。

［子どもを持ちながら働き続ける上で必要なこと］(複数回答)



出典：厚生労働省委託調査研究
「平成23年度 育児休業制度等に関する
実態把握のための調査研究事業報告書」
(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

T&D保険グループの取組み

株式会社
T&Dホールディングス
取締役専務執行役員
横山 輝紀

T&D保険グループでは、「多様な人材が働きがいを感じながら能力発揮できる企業風土づくり」を推進しています。

とりわけ女性が従業員の多数を占める当グループにあって、女性のさらなる能力発揮は持続的な企業価値向上の源泉であり、女性の活躍推進はグループの重要な経営課題と認識しています。

この認識のもと、T&D保険グループの生命保険会社3社では、各社で人事・処遇制度を改定するとともに、各種の両立支援制度を導入してまいりました。

また、グループ協働で男性の育児休業取得促進や総労働時間の縮減策を実施し、誰もが働きがいを持って活躍することのできる職場づくりを進めています。

これら女性活躍推進の取組みを着実に前進させるために、2014年度には、生保3社はそれぞれのビジネスモデルに基づいた行動計画を策定しました。

T&D保険グループは今後も「新たな価値の創造」を目指し、女性の活躍を推進してまいります。

【行動計画】
生保3社の女性活躍推進

取組施策	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
計画的な管理職の育成・登用の実施 / キャリア形成・両立支援策の充実 / 管理職の意識改革促進	意欲・能力ある女性を計画的に育成・登用	多様な働き方を推進し新たなチャレンジを支援	女性が安心して働き能力発揮できる企業に
	具体的施策 ●より大きな役割や新たな業務経験の付与 ●管理職候補者研修の実施 ●管理職研修等を通じた管理職層の意識改革 など	具体的施策 ●各種制度を活用した幅広いキャリア開発と長期的なキャリア形成 ●研修等による本人の意欲向上と上司の意識改革 ●在宅勤務等、各種制度を活用した働き方の刷新 など	具体的施策 ●キャリア形成、能力・スキルアップ研修の定期的な実施 ●ジョブローテーションの推進 ●多様で柔軟な働き方を推進する施策の充実 など
女性管理職登用に関する目標 女性管理職比率 (達成期限)	20%以上 (2018年4月)	15%以上 ～2013年7%の2倍に～ (2020年4月)	10%以上 (2019年4月)

女性の活躍を支援するために

グループ合同　女性職員と直属上司のペア研修

東京・大阪の本社2拠点で、女性職員とその上司である課長を対象とするペア研修を実施しました。女性職員と上司が同じプログラムをともに受講し、キャリア形成についてそれぞれの立場から考えることがねらいです。

今回は3社から51ペア（102名）が参加。3ペアずつ6名のグループで「最近ほめられたこと」を話題に1人3分以内でまとめる自己紹介や、女性役と上司役を入れ替えたキャリア相談ロールプレー、チーム発表などを行いました。

参加者からは「あらためて自分のキャリアプランを考える機会ができてよかった」「考え方の違い、ギャップに気づかされた」など、キャリア形成やマネジメントへの理解を深めるとともに、価値観や視点の違いに気づくことができた、といった声が寄せられました。

太陽生命
女性内務員研修

変化を恐れずに新しいことにチャレンジする意欲を向上させ、自らキャリアビジョンを描いて実行するための研修などを実施しています。

大同生命
チャレンジウーマンワークショップ

4カ月間にわたる女性限定のワークショップを新設し、社外講師(ギブス仁子氏)指導のもと、「女性がいきいきと働き続けるためのマインドやスキル」を学び、グループで調査・研究しています。

T&Dフィナンシャル生命
女性活躍サポート研修

女性従業員を対象に、目指すべきリーダー像を描き、その実現に必要な「指導力」と「安定力」の向上を目的とした「女性活躍サポート研修」を実施しました。

「持続可能な社会へ」
——豊かな地球を引き継ぐために

私たちが暮らす社会は、地球環境という基盤の上に存在しています。
私たちが、次の世代に、安心していきいきと働ける社会を引き継ぐためには、
豊かな地球環境という基盤も引き継ぐことが必要です。
T&D保険グループは、未来の社会を生きる子どもたちに豊かな地球を引き継ぐために、
地球環境を守る活動に取り組んでいます。

［二酸化炭素(CO_2)排出量［日本］］
(エネルギー起源)

出所：国立環境研究所地球環境研究センター
温室効果ガスインベントリオフィス

温室効果ガスの約9割は、私たちが使うエネルギーを主な発生源とするCO_2です。

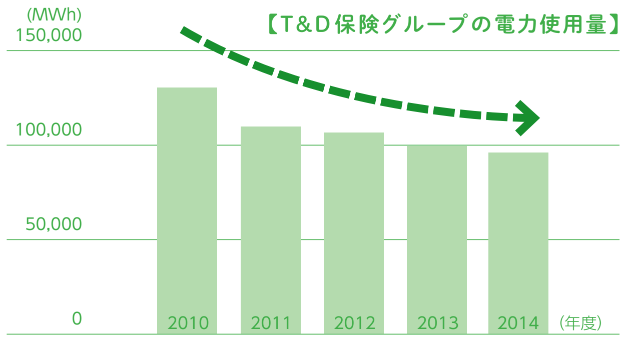
T&D保険グループは、日々の業務を通じた環境保護に取り組んでいます。ご紹介する「電力使用量削減」の他、「事務用紙使用量削減」「グリーン購入比率」についてグループ目標を設定し、グループ各社が積極的な取組みを進めています。

環境負荷軽減への取組み

電力使用量削減の取組み

太陽生命では、5月から10月までの間、オフィス内の冷房温度を28度に設定する「クールビズ」、11月から3月までの間は室温を20度に設定する「ウォームビズ」を実施しています。また、環境省が呼びかける「CO_2削減／ライトダウンキャンペーン」に賛同し、年に2回、7月と12月に執務室などの一斉消灯を呼びかける取組みを実施しています。

【T&D保険グループの電力使用量】



※太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命、T&Dアセットマネジメント、T&D情報システムの使用量合計

これら節電への取組みに加え、デマンド監視システムの導入によるビル毎のピーク電力の設定・管理や、「早帰りデー」の実施など、さまざまな取組みの実施により、電力使用量の削減に努めています。

地球環境課題へ貢献する私たちの「思い」

私たちの暮らしや経済活動は、地球環境という基盤の上に成り立っています。現在、さまざまな環境問題が叫ばれるようになっていますが、節電への取組みなど、私たち一人ひとりがほんの少し意識を高めることで、主要な環境問題である地球温暖化の防止に貢献することができると考えています。これからも、私たち一人ひとりが「環境にやさしい気持ち」を持ち、小さなことを積み重ね、環境負荷軽減に取り組んでいきたいと思います。

太陽生命保険株式会社 総務部 庶務課長
棟方 静香

森林保全活動

森林資源を守り、また、そこで生きる多様な生命を守ることを目的に、太陽生命では栃木県那須塩原市と滋賀県高島市に「太陽生命の森林(もり)」を設置し、育林活動を進めています。

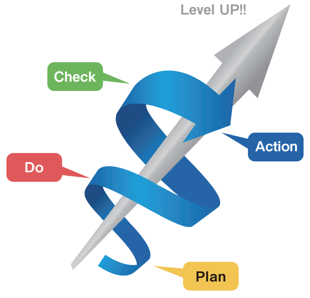
2014年12月、滋賀県高島市の小学校の子どもたちと進めている「どんぐりプロジェクト」の第1回植樹式を行いました。

2011年にプロジェクトがスタートしたときに小学3年生だった第1期生が6年生になり、自分たちの手でどんぐりから育てたコナラの苗木を森林に植えました。この森林の未来を担う子どもたちにとって、思い出に残るすてきな1日になりました。

【どんぐりプロジェクト】 太陽生命が「太陽生命くつきの森林(もり)」において地元小学校と協力して実施している活動です。3年生児童が森林で集めたどんぐりから苗木を育て、3年後の卒業時に「太陽生命くつきの森林(もり)」に還します。子どもたちが自然環境保護の大切さを理解する体験の機会となっています。

グループCSR活動の推進と活動状況

T&D保険グループでは、T&Dホールディングスの社長を委員長とし、グループ各社のCSR担当役員等を委員とする「グループCSR委員会」を設置し、グループ一体となったCSR活動を推進しています。「グループCSR委員会」は、グループCSR活動推進の要となり、CSR活動の基本方針と重点分野を定め、年間計画を策定し、その実施状況を定期的に確認しています。2015年度は、「より良い商品･サービスの提供」「人権の尊重」「地球環境の保護」を重点分野と位置付け、グループのCSR活動を推進しています。



2014年度　グループCSR活動状況報告（活動の一部です）

グループ共同の取組みを主に記載しました。この他にもグループ各社がさまざまな施策に取り組んでいます。

取組内容／Plan	結果・実績／Do	2015年度の活動予定／Check・Action
●より良い商品・サービスの提供		
(生命保険3社) ・最優の生活保障をご家庭にお届けする。 ・中小企業の多様化するニーズに幅広くお応えする。 ・金融機関等乗合代理店チャネルを通じ、差別化した商品をお届けする。	・保険組曲Best介護保障の保障範囲拡大、軽度介護保険の発売。医療保障系商品の加入年齢拡大。 ・身体障がい状態となった場合のリタイアリスクに備える「Tタイプ」(無配当就業障がい保障保険)を発売。 ・収入保障保険の支払年金額種類追加。主力の一時払終身保険商品で契約年齢を拡大。	・変化するお客さまのニーズにお応えする商品の開発と提供。 ・高齢のお客さまの利便性や満足度向上に向けた取組み、「ベストシニアサービス」のさらなる推進。
●人権の尊重		
【人材育成の取組み】 ・グループ人材交流の実施。 ・グループ経営への役職員の理解・浸透を促進。	・グループ会社4社の間で相互に人材派遣による交流を実施。 ・役員・部長に加え、生保3社中堅層約500名を対象にグループ経営研修を実施。	・グループ会社間の人材交流を拡大実施。
【女性活躍推進】 女性活躍推進のさらなるレベルアップ ・グループ会社間短期交流の推進。 ・女性活躍推進の数値目標設定。	・女性職員の会社間交流を継続実施。 ・女性職員とその上司が参加する「女性活躍ペア研修」実施。 ・生保3社で管理職登用の数値目標を含む行動計画を策定・公表。	・女性活躍推進の法制化を見据え、グループ各社の取組みや計画に関する情報連携を緊密化。 ・女性活躍ワーキンググループによる、協働施策の企画。
【ワーク・ライフ・バランス(WLB)推進】 女性活躍推進と一体的なWLBの推進 ・両立支援施策の充実・向上。 ・労働時間縮減施策検討・実施。	・次世代法の延長に対応し、グループ統一の第6期行動計画を策定。 ・労働時間に関わる数値目標達成を条件とする「プラチナくるみん」認定を生保3社が申請。	・次世代法グループ統一行動計画施策の推進。 ・良好な職場風土の醸成に向けた啓蒙活動の協働実施。
●地球環境の保護		
電力使用量削減 目標期間：2013～2017年度(基準：2009年度) 対象範囲：ホールディングス、中核会社が保有または賃借して使用するビル 目　　標：床面積あたり電力使用量10%以上削減	始業時間前・昼休みの消灯、OA機器の電源オフなどの他、早帰り日の設定、クールビズ・ウォームビズ、ライトダウンキャンペーン実施など、さまざまな取組みを実施。	2014年度までの実績は基準年比▲18.3%と順調に進捗中。 左記の取組みを継続し、一層の電力使用量削減を進める。
事務用紙使用量削減 目標期間：2014～2018年度 基　　準：2009～2013年度使用量の平均 対象範囲：ホールディングス、中核会社の本社使用分 目　　標：基準比9%削減	ペーパーレス会議の導入、会議資料の削減、2 IN 1印刷・両面印刷の利用、コピー枚数の管理徹底等により、使用量削減を推進。	2014年度実績は基準値比87.3%（前年度比98.2%）と順調に進捗中。 ペーパーレス会議の導入拡大の他、左記の施策を通じた使用量削減の取組みを継続。
グリーン購入比率 目　　標：文具・事務用品のグリーン購入比率80%以上 対象範囲：ホールディングス、中核会社	グループ共通のグリーン購入基準を定め、グリーン商品の優先購入を推進。	2014年度実績はグリーン購入比率96.0%（前年度は95.4%）と、目標達成を継続中。環境対応商品の優先購入の取組みを継続。
●コミュニケーション		
・役職員のCSR意識向上 ・ステークホルダーへのCSR情報発信	・グループCSR役員・部長セミナーを開催。 ・グループCSRレポート発行。お客さま、一般の方を対象とするフォーカス編と投資家などを主な対象とするデータ編を作成。環境データに第三者保証を取得。	・役員部長層・課長層に適したテーマで複数回のセミナーを開催する。 ・読者の関心・ニーズに応えるCSRレポートを作成・発行する。
●地域社会への貢献		
・クリーンキャンペーン(地域清掃活動) ・グループ共同献血	・太陽生命「全国一斉クリーンキャンペーン」及び、東京芝地区クリーンキャンペーンにグループ各社が参加。 ・グループで協力し、汐留本社ビルで年2回の献血実施。(2014年度の献血会場への来場者数 延べ415名)	・2015年度も継続してグループでクリーンキャンペーンに参加。 ・2015年度も継続して献血を実施。

《健全な社会の発展のために》

クリーンキャンペーン

太陽生命では1982年から、地域社会への社会貢献活動として、本社周辺の清掃活動を行ってきました。2004年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」として、全国の支社でも周辺地域の清掃活動を実施。本社のある東京汐留地域の清掃活動には、グループ各社の役職員とその家族の皆さんも協力し、2014年度は全国で約8,100名が地域の清掃活動に参加しました。

全国障害者スポーツ大会への特別協賛

大同生命は、創業90周年となる1992年に開催された「第1回全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）」より、20年以上にわたり全国障害者スポーツ大会に特別協賛しています。2014年度は「長崎がんばらんば大会」に、大同生命の役職員をはじめ、太陽生命の役職員や大同生命の提携団体の方など、約200名がボランティアとして大会に参加しました。

寄付による大学でのオープン講座

大同生命は、創業100周年となる2002年から「寄付による大学でのオープン講座」の開催を継続しています。この講座は、中小企業経営者・後継者の皆さまに、経営とビジネスに関連する知識・スキルの習得の場をご提供するもので、過去13年間で延べ1万人を超える受講者の方々からご好評いただいています。2014年度は、全国6大学で7つの講座を開講しました。

《健康・医療・福祉の向上のために》

グループ共同献血活動

T&D保険グループは、東京都赤十字血液センターに協力し、8月と1月の年2回、汐留本社ビルで献血活動を行っています。グループ共同で各社の役職員に協力を呼びかけ、2014年度は、延べ415名が献血に参加しました。

日本ダウン症協会への支援

太陽生命は公益財団法人日本ダウン症協会と交流し、2006年よりさまざまな支援活動を行っています。2014年は、太陽生命が2006年から整備活動を行ってきた「太陽生命の森林（もり）」に同協会栃木支部に所属されているご家族をお招きして「森林教室」を開催。新緑に包まれた森林の1日を過ごしていただきました。

東日本大震災復興支援

公益社団法人日本フィランソロピー協会が企画する「被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト」にグループ各社の役職員が協力。全国から集められた絵本合計1,381冊を、被災地の子どもたちに届けることができました。

機関投資家としての取組み　（責任投資）

社会性・公共性の高い生命保険業を事業の中心とするT&D保険グループにとって、機関投資家としての社会的責任を果たし、投融資活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献することは、最も基本的な責務のひとつです。

● 「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）

機関投資家には、投資先企業の企業価値の向上や持続的成長を促し、資産の運用を委託するお客さまの期待に応える責任があります。この責任を果たす上で役立つ行動の原則・指針として「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）が策定されました（2014年2月）。T&D保険グループでは、太陽生命、大同生命、T&Dアセットマネジメントが同原則の趣旨に賛同し、その受け入れを表明しています。

・T&Dフィナンシャル生命は国内上場株式を保有していないため、受け入れに関する表明をしていません。

【投資先企業との対話（エンゲージメント）と議決権行使】

- 持続的な成長を促すよう、日常的に投資先企業と「目的を持った対話」を行っています。
- 株主として議決権を行使する際は、財務情報などの形式的判断にとどまらず、ESG（環境・社会・企業統治）などの非財務情報も踏まえ、その賛否を判断します。
- 議決権行使が適切に行われるよう、議決権行使のガイドラインを定めています。基準に抵触する議案については対話を行い、対話を通じても改善の見込みがない場合は、反対票を投ずるといった厳正な取組みを行っています。

● PRI（責任投資原則）

Signatory of: PRI Principles for Responsible Investment

PRI（責任投資原則）は、国連環境計画・金融イニシアティブ及び国連グローバル・コンパクトが主導して、世界の金融機関・機関投資家に、ESG（環境・社会・企業統治）の課題を考慮した投資行動を促す金融機関の行動規範です。T&D保険グループからは、太陽生命が2007年に日本の生命保険会社として初めて署名し、同原則を踏まえた資産運用体制の整備と資産運用を行っています。また2012年にはT&Dアセットマネジメントが署名し、企業評価にESGの要素を取り入れることを通じ、中長期的な運用パフォーマンスの向上を目指す取組みを進めています。

● グループ共同で取り組む社会的責任投資（ESG投資）

T&Dアセットマネジメントが新たに設定・運用する日本株式のESGファンドに、太陽生命と大同生命が投資を実施。グループ共同のESG投資を開始しました（2015年7月運用開始）。当ファンドは、ESG（環境・社会・企業統治）リサーチに基づいた銘柄選択によりESGに優れた企業に選別投資することで、中長期的に市場平均を上回る投資リターンの獲得を目指すと同時に、環境負荷の低減や健全な社会の実現に資する企業への投資を通じて、持続可能な社会の形成に貢献しようとするものです。

イニシアティブへの参加（2014年～2015年）

● 国連グローバル・コンパクトへの参加（2015年7月）

国連グローバル・コンパクトは、企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することにより、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取組みです。国連グローバル・コンパクトが提唱する、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則は、T&D保険グループの考え方・方針と共通するものであることから、T&Dホールディングスがグループを代表して同原則に署名し、グループとして国連グローバル・コンパクトに参加することとしました。

THE GLOBAL COMPACT Network Japan WE SUPPORT

● 21世紀金融行動原則への参加（2014年7月）

21世紀金融行動原則は、環境省の中央環境審議会の提言に基づき、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定されました。T&Dホールディングスとその直接子会社全5社は、その趣旨に賛同し、それぞれが21世紀金融行動原則の署名会社となり、本業はもちろん、幅広い事業活動全般を通じて持続可能な社会の実現に向けた活動に取り組んでいます。

21世紀金融行動原則

第三者意見

海外へも積極的な発信を

高崎経済大学 経済学部 教授　水口 剛

1984年筑波大学第三学群社会工学類卒業。ニチメン、英和監査法人などを経て、1997年高崎経済大学経済学部講師、2008年より現職。主な研究分野は環境会計、社会的責任投資など。日本公認会計士協会環境会計専門部会長、中央環境審議会環境と金融に関する専門委員会委員などを歴任。現在、NPO法人社会的責任投資フォーラム共同代表理事を務める。主な著書に『責任ある投資』（岩波書店）、『社会を変える会計と投資』（岩波書店）、『環境と金融・投資の潮流』（編著、中央経済社）、『環境経営・会計』（共著、有斐閣）など。

今年のダイジェスト編はPDCAが分かりやすくなりました。冒頭に掲げられた3つの重点分野に対応して、計画、実績、今後の方向がよく整理されています。特に、本業そのものである「より良い商品・サービスの提供」が、CSRにおけるPDCAの中核に位置付けられたことは良かったと思います。相互扶助という生命保険の理念をしっかり形にすることこそCSRだという考え方に共感します。

その意味で、社会的課題への対応として紹介されている2つの介護保障商品の開発は、時宜を得たものと思います。高齢化に伴って介護問題が深刻化することは明らかですから、公的介護保険制度を補完する商品があれば多くの人が助かります。特に、これまで日本を支えてきた中小企業を、保険商品を通じてさらに後ろから支えることは重要な社会貢献だと思います。

小学3年生にどんぐりから苗木を育ててもらうという「太陽生命の森林」の活動は優れた環境教育だと思いますし、女性職員と直属上司のペア研修も秀逸なアイディアです。女性管理職比率に関して数値目標を示されたことも評価します。

今年度は新たに国連グローバル・コンパクトにグループとして署名され、国際的なイニシアティブにまた1つ加わりました。また国連グローバル・コンパクトと姉妹関係にあるPRI（責任投資原則）にも太陽生命とT&Dアセットマネジメントが署名していますが、グループとしての署名を検討しても良い時期ではないでしょうか。

T&Dアセットマネジメントが設定したESGファンドに太陽生命と大同生命が投資し、グループ共同のESG投資が始まったことも大きな進展です。巻頭特集の座談会で「投資先の選別を通じてより良い社会づくりに貢献していくこともCSRだと思います」という声があったことを心強く感じました。一方で、欧州を中心に世界の責任投資はさらに進んでいます。多くの年金や生命保険が地球温暖化などの社会的課題について積極的に発言し、企業や政府にも働きかけています。それが結局は投資価値を守ることだと考えているからです。御社にもぜひ海外の議論に積極的に参加していただき、存在感を発揮してほしいと願っています。

第三者意見を受けて

株式会社T&Dホールディングス 経営企画部CSRグループ

今年度のレポートでは、当社グループが重要と考える社会的課題は何か、そして、その社会的課題にどのように取り組んでいるかに焦点を当てお伝えするように努めました。

保険グループとして最も基本的な責務である、保険商品・サービスの提供を通じた社会への貢献に加え、機関投資家として社会的責任を果たし、社会に貢献する取組みについても記載しています。2014年度版に水口先生からいただいた第三者意見で、本業を通じたCSRのPDCAについて、また、責任ある機関投資家としてのスチュワードシップ活動への期待についてコメントをいただきました。今回は、本業を通じた社会貢献の取組みや、責任投資の取組みについても一定の評価をいただけたものと思います。その上で、海外に向けた意見の発信を含め、責任投資分野での一層の進歩と存在感の発揮を期待いただくご意見を頂戴しました。

今回いただいたご意見については、当グループのさらなる進化へのご期待と受けとめ、今後の取組みを通じてお応えできるよう、グループ一体となって前進への努力を続けてまいります。